

## 【提案項目】

### 31 東広島・呉自動車道の整備促進について

#### 【提案要旨】東広島・呉自動車の整備促進

##### ■提案事項

#### ○ 東広島・呉自動車道の更なる機能強化・強靱化対策を図ること

東広島・呉自動車道は、山陽自動車道・広島空港・東広島市・呉市を繋ぐ広域連携の基幹道路であり、広域観光機能の強化、産業基盤整備、生活環境の充実など、高速交通ネットワークの整備効果を最大限発揮させることが必要である。

また、災害時は救命救急活動や緊急物資輸送を支え、代替路としての機能も有し、重要物流道路に指定されるなど、高い機能を要求されるため、4車線化など更なる機能強化・強靱化対策が必要である。

【提案先：国土交通省】

## 東広島市の現状と課題・取組状況

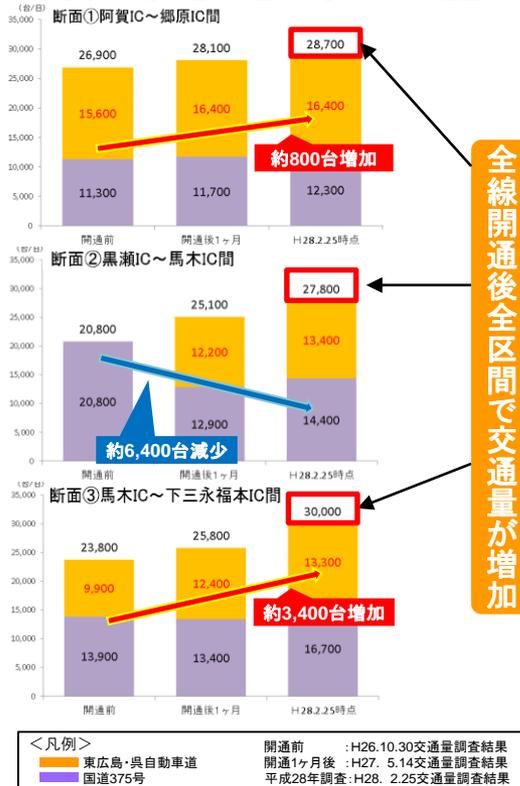
### 現状

- 呉市から東広島市を經由し、山陽自動車道及び広島空港へのアクセス性を高めるとともに、広域観光の開発や産業基盤、生活環境の整備促進を目的として整備が進められ、平成27年3月15日に馬木ICから黒瀬IC間(L=8.8km)が開通し、高屋JCT・ICから阿賀ICまでの全線(L=32.8km)が開通した。平成29年4月9日には追加ICとして大多田ICが開通し、令和4年3月には阿賀IC立体化が完成した。
- 全線開通により、国道375号の交通量が減少し、懸案となっていた渋滞が減少した。
- 東広島・呉自動車道沿線の産業団地が完売となるなど、全線開通の効果が発揮されている。
- 平成30年7月豪雨災害では、救命救急活動や緊急物資の輸送を支え、広島・呉間が通行止めの際、代替路として機能を発揮した。

### 課題

- 暫定2車線供用区間の更なる4車線化などによる機能強化と強靱化対策を行い、道路の安全性・信頼性を向上させる必要がある。

【東広島・呉自動車道と国道375号の断面交通量】



全線開通後、  
沿線工業団地進出企業数  
**19社**

